

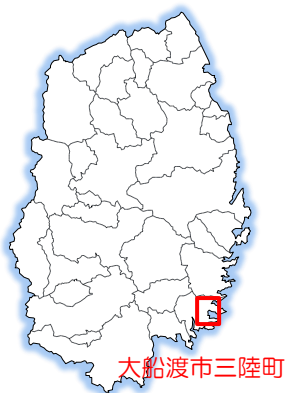
越喜来地区海岸防潮堤の復旧に向けた取組

沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター

本工事は、まだガレキ撤去が行われていた平成 25 年3月に着工しました。各地の復旧・復興工事の本格化等により作業員や資材が不足する中、遠隔地から資材を調達するなど受注者と一体となって工事を進め、発災から約6年半後の完成となりました。

現在は、当海岸内にある水門2基（浦浜水門、泊水門）の上屋、設備工事を行っており、年度内の完成に向けて工事を進めています。

位置図



越喜来地区海岸の概要・津波による被害

越喜来地区海岸は、越喜来湾の奥に位置する海岸であり、震災前の防潮堤背後には、大船渡市役所三陸支所、越喜来小学校など旧三陸町の市街地が広がっていました。

東日本大震災津波により、海岸防潮堤が倒壊・流失し、市街地も壊滅的な被害を受けました。**越喜来湾の津波痕跡（岩手県調査）は T.P.*+16.9m** となり、被災前の防潮堤高 T.P.+7.9m を大きく超える津波が確認されました。

※T.P.（東京湾中等潮位）：東京湾の平均海面を基準とした水位の高さ



被災前（平成 22 年 3 月 14 日）



被災後（平成 23 年 3 月 29 日）

災害復旧工事の概要

越喜来湾では、数十年から百数十年に一度程度発生すると想定される津波(L1 津波)に対応するため、新たな防潮堤高を T.P.+11.5m としています。

また、当海岸では、震災後に浦浜川右岸に発生した砂浜地形を生かすため、当該区間の防潮堤法線を陸側に下げる計画としました。

【工事概要】

工事名：越喜来地区海岸災害復旧（23 災 519 号及び 606 号）工事

箇所名：大船渡市三陸町越喜来字沖田地内

工期：平成 25 年 3 月 7 日～平成 29 年 9 月 30 日

概要：復旧延長 947.5m、防潮堤工 889m、水門工 2 基、突堤工 240.5m、

施工状況写真



平成 27 年 2 月



平成 28 年 2 月